僕物語

柳座絶麗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
僕物語

【Ｎコード】
Ｎ２５７３Ｙ

【作者名】
柳座絶麗

【あらすじ】
世界に絶望した主人公の物語？

きっといつかは…
繰り返す考えを振り払う
終わり無き思考をとめて…
とことん暗い物語？です

絶望

届かなかった言葉
届かなかった心
もう何処にも存在しない
愛された証など僕にはなく
愛する心さえも分からない
気付いたことは、それが人だということ
それが人の本質
ただ他人を利用することでしか生きられない生き物
そうすることで自分を守る弱い生き物
感情などは見せかけのもの
表情などは形だけのもの
世界の暗黙の理
僕の世界は消えてしまった
言葉もとうに届かない

そんな何も無い世界で何をしよう？

果てしなく永い時を刻みながら

何かを見つけることが出来るのだろうか？

答えは何処にもないというのに…

明暗

絶望
破滅
嘆き
滅亡
存在の否定
存在価値
届かない言葉
枯れた愛情
飢えた心
世界に満ちている悪意
僕は世界の中の小さな存在
「幸せなんて僕にはこない」
世界は僕を取り残しながらもまわり続ける
ふえた傷跡

抱える闇
膨らむ感情
とどまらない思い
「僕の世界はココじゃない」
うわべだけの存在
うわべだけの関係
「うんざりだよ、僕の前から消えて」
潜む影
遠ざかる光
忍びよる漆黒
「繰り返すことしか出来ない世界…」
どうか繰り返される世界よ
永久(とこしえ)に
二つに分かれた僕の明暗

傷痕

心削られ痛み残る
感情抉られ傷痕残る
痛みはやまず心は止まる
考えることは思い出すこと
痛みは消えず廻り廻る
感情の波に飲み込まれ消える自分という名の存在
存在理由は何処にも無い
「生きてる意味なんて僕にはないんだ」
聞こえない心
届かない言葉
叫ぶ思いは届かない
傷痕だけが深くなる
「聞こえない」
聞こえない

聴こえない
ざわめく心には
悪しき心には
「誰か聞こえる？僕の声（さけび）」
誰か気付いて僕のこと
誰か聞こえて僕の声（さけび）
誰か答えて僕の意味
誰か教えてここにいる意味
傷痕抉りあふれ出す鮮血
見えない鮮血
誰にも気付かれずに僕は流し続ける
見えない鮮血を
傷を抉られながら
世界は傷痕を残す
見えないように僕の奥底深くに

相反

縛られた世界
規制された世界
自由を奪われた僕
いつから縛られるようになったのだろう
他人に縛られ
自由を奪われ
今の僕に出来ることはあるのだろうか？
答えは無いと知った
それが答え
それが全て
それがこの世界
そして
僕はそんな世界に生まれ落ちた
それが答え

相反する世界
否定
存在の否定
存在の意味
分からず答えを探す
繰り返す
過ちを
忘れ去られた世界を
そして
答えは去ってゆく
否(いな)
答えは消えてゆく
ゆっくりと
時を経て
忘れ去られた世界へと

場所

誰も知らない
僕も知らない
知りもしないのに
知った風なことを言う大人たち
「だから嫌いなんだ…」
知った風な口調で
ほらを吹く
今だって
僕のこと何も分かってないじゃないか
分かってないのは
大人たち
奪っているのは
大人たち
僕に自由はなく

未来もない
ただ
壊れかけた世界で
大人たちの
玩具になるだけ
それが
今の僕の
存在理由
知ろうとしない
否(いな)
知ってるという
嘘
分かったように言ってるが
中身は空っぽ
知っていた

前から
境界線を越え
僕の中まで知ろうとしないこと
「プライバシーは守らないとね」
嘘
ただ本当の僕を
知るのが嫌なんだ
自分の知ってる僕と
違うのが嫌なんだ
それが
大人
それが
今の僕の場所
自由のない
規制された

何もない
存在するためだけの
場所

偽表情

浮かべる微笑み
偽の微笑み
「本当の僕は何処に行ったのだろうか」
今日もまた表情(かお)を作る
いつものように
そうしないと
僕は生きていけない
表情
本当の表情(かお)は
表に出してはいけない
そうしないと
まわりを不快にしてしまう
「まわりのことをもっと考えろ」
結果

表情を
僕は隠した
結果
表情を
作った
平穏を願う僕は
そうすることしか出来ない
「本当の僕はもう分からない」
誰も知らない
「僕さえも知らない」
その方がきっと
生きていくには
楽なんだ
間違っていることは
僕にだって分かっている

だけど
弱い僕は
そうすることで
自分自身の
弱い心を守ったんだ
それが
今の僕に出来る
最良のこと
「変わらないと」
分かっている
変わらないと
進めない
今日も作る
偽の表情(かお)を
偽の微笑を

枯叫

いらない
必要とされていない
なら
僕は何のためにここにいるのだろうか
いつもそう
悪いのは
全部僕
罪をきせられて
いつもそう
僕だって人間だ
我慢できなくなる
壊したい
すべてを
この手で
何もかもを

木端微塵に
形がなくなるまで
壊しつくしたい
僕の思っていることを口にすれば変わるのだろうか
否
向こうが変わらないかぎり
僕が変わっても、何を言っても変わることはない
そう
結局は
権力が強い奴が勝つんだ
それが
今の世界
絶望しかない
僕はただ
肩身を狭くして生き続けるしか出来ない世界

息の詰まる世界
息苦しい世界
そんな世界が
今の現状で
僕を苦しめる
喘ぐ僕を
嘲笑うかのように

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2573y/

僕物語

2011年12月11日16時52分発行